

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第35号

創部100年を前に全国大会出場と グラウンドの芝生化を目指して

OB会会長 39回生 小泉 親昂

昨年度のOB会総会で牧村前会長の後を継ぎ伝統あるOB会会長に選出されました。これまでOB会の役員は長いことつとめてきましたが、最近では名ばかりの副会長でこれから皆さんのお役に立つか心配しています。

湘南に入学してサッカーを始めてすでに五十五年以上がたちますが、いまだにサッカーとの縁が切れず、現在では県サッカー協会の理事、鎌倉市サッカー協会の会長、神奈川県シニアリーグ顧問などを務めています。その関係で県協会の主催する地域交流大会や地域対抗大会など市町村の社会人の試合や、地域の少年サッカーの試合は数多く見えますが、母校のサッカー部の試合を見に行く機会が少なく残念に思っています。これからは時間を作って見に行くようにしたいと思います。

さて湘南高校は大正一〇年

(一九二二年)に神奈川県立湘南中学校として創立されあと数年で開校百年を迎えます。初代赤木校長がサッカー(その当時は蹴球といってた)を校技とすることを定め、全校教師生徒がボールを追っていたということが記録に残っています。蹴球部も立ち上がりました。創部から数年後には県下で有数のチームになり戦前には全国大会の中でも三位になるなど強豪チームとして名を知られるようになりました。戦後は第一回国体(その当時は単独チームによる出場)で全国優勝、第三回大会でも準優勝という輝かしい成績を得ています。その後も関東大会優勝などの歴史を刻んできました。

全国高校選手権では昭和の最後の大会出場ベスト16という成績をおさめています。爾来関東大会や全国大会の出場はありませんが、私立高校の台頭の中、ここ数年は公立高校の

強豪として県下でも各大会のベスト8や16に入っており、OBとしても期待感が持てるチームとなっています。

また特筆すべきことは近年では県立高校サッカー部としては珍しいことですが隔年ごとにスペイン遠征を行っていることです。公立高校でヨーロッパ遠征を行っているチームは県下にはありません。これも湘南だからできることだと思います。

最近の高校サッカーを見ているとJクラブのジュニアユース出身者が高校でサッカーを続けている例も多くみられます。その意味では県立高校サッカー部のおかれている環境は大きく変わっていますがU15で活躍した選手が湘南に入学し強いチームがつけられる可能性がないわけではありません。

あと数年で百周年を迎えることになり、がそのためには良いグラウンドでの技術の向上を図ることが大切です。県内の私立高校で人口芝のグラウンドを整備するところも年々増加しています。是非湘南高校のグラウンドを人工芝のグラウンドにしたいと思っています。これを実現させるこ

のためにOB会としても協力できる
ところを模索していきたいと考えて
います。

そして百周年に向けてぜひ後輩た
ちが頑張つて全国大会出場を果たし
てもらいたいと考えています。私も
全国大会に出場したことがあります
があこの当時は全県で三十にも満たな
いチームでの予選であり現在のよう
に二百校を超えるチームでの予選を
勝ち抜くことは容易ではないかもし
れません。しかしOB会としてもで
きる限りの支援をしていきたいと考
えています。OBの数も千人に喃喃々
としていきますのでOBの総意を結集
して母校のサッカー部の応援をして
いきましよう。

私の原点 湘南高校サッカー部

69回生 元榮 太一郎

いま私は弁護士として、「弁護士
ドットコム」(東証マザーズ上場)
の代表として、そして2016年の

夏からは参議院議員(千葉県選挙区)
として活動の場をいただいています。
これまでの人生を振り返ったとき、
湘南高校で過ごした日々がすべての
原点だったと改めて感じます。

特に思い出されるのがサッカー部
での日々です。先輩、後輩、そして
同じ時間を刻んだ仲間たちとの思い
出はかけがえのないものとしていま
も輝いています。

ポジションはサイドバック。ディ
フェンダーでありながらときに攻撃
にも鋭く切り込むこのポジションに、
私は強く惹かれました。「走れ走れ」
の毎日はとてもタフな日々でしたが、
体力が付くことで相手選手に競り負
けることもなくなり、「努力は裏切
らない」ことを私に教えてくれまし
た。この経験は、後の司法試験、独
立起業、そして長く地道な選挙活動
へと連綿とつながっていきました。
2年生からレギュラーを任されるよ
うになり、私にとってサッカーはよ
う生活の一部となつていきました。

サッカー部の顧問を務めていらつ
しゃつた藤塚久雄先生の思い出も触
れないわけにはいきません。
藤塚先生は1年生時の担任でもあ

りましたが、多面に渡り大変なご心
配をお掛けいたしました。

そんな私に対して常に全力で、温
かく指導してくださつた藤塚先生に
心より感謝しております。

大学卒業後、弁護士を志しました。
司法試験合格に向けての日々はスト
イックの一言です。

それでも前だけを向いて歩を進め
ることができたのは、努力、胆力を
学んだサッカー部での日々があつた
からです。

いま、多くの方々にご利用いただ
いている法律相談サイト「弁護士ドッ
トコム」もまた同じです。「社会に
とつて必要だ」と信じて手がけたも
のの、サービスを開始してから8年
間にわたつて赤字が続ききました。

それでも「法律トラブルに巻き込
まれ、困っている人の力になりたい」
との一心で、スタッフ一同歯を食い
しばつた結果、2014年末に東京
証券取引所マザーズ市場に株式上場
することができました。

「努力は裏切らない」。長期的な努
力は必ず新しい未来を切り拓いてく
れる——。そう信じてることができた、
その原点は湘南高校での3年間にあ

ります。
湘南高校サッカー部同窓のご縁を
大切にして参りたいと心から思いま
す。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何
卒よろしくお願い申し上げます。

第44回湘友会 セミナー報告



今回の遠征の報告は、湘友会セミナーのレポートという形式でかえさせていただきます。

○日 時…平成28年8月13日(土)
 ○場 所…湘南高校 多目的ホール
 ○テーマ…『スペイン遠征でのサッカー体験と、怪我の処置』
 ○講師…加納正道氏(43回・サッカー部OB、外科医、神奈川県サッカー協会理事)

サッカー部夏のOB会の日開催するセミナーは、恒例の行事となっている。OB会員に加えて、現役サッカー部員、父母を加えて160名が参加し、多目的ホールで実施した。講師の加納氏は外科医で、春に行われたサッカー部のスペイン遠征に同行した。

この遠征はISのテロの影響があり、スペインとロンドンでの当初の計画を、スペイン国内のみという内容に変更した。湘南高校サッカー部がスペイン遠征を行うのは7回目、北部のバスク地方の都市ビルバオにあるプロのサッカーチーム「アスレチック・ビルバオ」との交流を続けている。



バスク地方はスペインでは独自の文化・言語を持つ特殊な地域で、独立志向が強い。アスレチック・ビルバオは、リーガ・エスパニョラで2部に落ちたことがない強豪チームであり、ユーロ2016にも代表選手をだしている。同チームは、バスケット出身者しか入団させないという極めて稀な方針のチームである。ヨーロッパの大半のチームは、南米などから選手補強を行っている。外部から選手をとらないため育成に注力し、選手育成には定評がある。湘南高校



サッカー部は、ここをポイントに提携先を選択した。

育成世代の試合では、ラインズマンをおかず、オフサイドをとらないという工夫をしている。これにより、FWとBKの個の戦いをさせ、個を強くすることを意図している。このほか、試合形式の練習では、コーチが入って、ゲームをとめてポジションを修正するなど10代の選手育成の練習について、動画を交えての説明を行った。加納氏が昭和40年代に湘南で教わったサッカーと、現在のス



ペインで教えているサッカーは、本質的には変わらないということであった。

遠征の試合で、現役選手の1名が手首の骨折をした。救急車で病院に運び、加納氏も同行した。スペインの病院は、非常に友好的で治療も適切であった。病院スタッフはアスレチック・ビルバオのサポーターであり、湘南がサッカーできてきていることを知り、この診察は無料にしてくれた。サッカー文化の広がりや深さを感じる一幕であった。

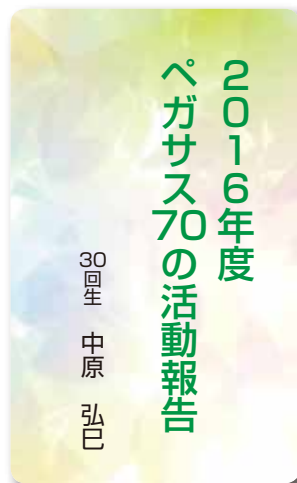
後半では、サッカーでの怪我などの実例を説明する。試合中、グラウンドで心臓停止し、AEDで、心臓を再度動かした事例。高校生の試合で、ヘディングでせって、頭と頭がぶつかって、救急車2台をよんで入院した事例などを紹介。OBや現役の試合の身近に起こったことで、いくつか類似のことが起こっても不思議ではなく、日頃の準備が重要である。

試合会場に入ったらAEDの場所を確認する、何かあってもAEDの音声指示にしたがって、落ち着いて対応するなど強調した。

このあと、現役生徒の代表2名が登壇し、スペイン遠征の総括と反省を述べた。OB会のサポートで充実した遠征が実施されたことに謝辞があった。反省点では、忘れ物、パスポートの紛失から日本とは異なる治安の状況等に言及した。高校生の時代には、これだけの海外経験ができたことは大きな収穫であった。

セミナーの概要は以上であるが、この日は、OBがおよそ100名集まり、若手は午前中に試合、40才以上はセミナー終了後の夕方に試合を

行った。15才から69才までが、サッカーを楽しんだ1日であった。(48回、関佳史)



ペガサス70の会員は70歳以上ですが最年長は川島さんの86歳です。会員数は全体で35名、そのうち75歳以上がほぼ半数の18名です。大会によつては69歳でも参加可能ですので、年齢差は17歳と大きな差があります。行事は日本協会に係る公式戦から、各県や地域の開催、あるいは草の根の大会と多岐に亘り、さらに定期的な練習会があります。各メンバーが年齢やそれぞれの事情に合わせて、参加行事を選んで参加していただきます。各大会の参加者がプレイを楽しむのが第一の目的であるとともに、勝ちたい試合もあります。そこで、大会によつては若手でメンバーを編成しています。

関係する大会や練習会は全体として数が多く、日程が重複して困るほどです。年度初めに年間予定表を作ります。本年度の予定表を見ると、年間活動日数が111日、試合数が43試合で、ボールを蹴るには困らない状況となっています。行事がウィークデイ中心なのが問題かも知れません。

U・76の試合

全国大会に繋がる全国シニア神奈川県リーグとローカルなシニアリーグ70雀には、U・76チームを編成して参加しました。全国シニアは今年からレギュレーションが変り69歳以上の選手が参加可能で、伊通、豊田、二木の3選手に加わって貰いました。しかし残念ながら下記のように勝ち点では茅ヶ崎と並びましたが、得失点差で茅ヶ崎に優勝を奪われました。リーグ戦では得点力が大事です。シニアリーグ70雀は、1勝1敗1分けで3位に甘んじました。

全国シニア神奈川リーグ

- 湘南ペガサス2・1イースト70
- 湘南ペガサス2・0ウエスト70
- 湘南ペガサス0・0茅ヶ崎70
- (茅ヶ崎4・0イースト70、茅ヶ崎

6・0ウエスト70) シニアリーグ70雀

- 湘南ペガサス1・1イースト70
- 湘南ペガサス2・0ウエスト70
- 湘南ペガサス0・3茅ヶ崎70

今年から県外のGリーグ等の大会にもU・76を中心に下記の大会に参加しました。

Gリーグ埼玉深谷大会

- 湘南ペガサス0・1千葉
- 湘南ペガサス1・0埼玉けやき

Gリーグ千葉市原大会

- 湘南ペガサス1・4埼玉
- 湘南ペガサス2・4群馬
- 刈谷スーパースィニア大会(大学、高校OBチームが参加)

- 湘南ペガサス1・0YOS(農大OB)
- 湘南ペガサス6・0名阪連合
- 湘南ペガサス0・3名古屋500CR

関東シニア埼玉大会

- 湘南ペガサス0・3埼玉さくら
- 湘南ペガサス1・2群馬
- 東日本ロイヤル大会(那須)

湘南ペガサス1・1栃木

- 湘南ペガサス0・1青森
- 湘南ペガサス2・1東京
- 清水スーパースィニア大会

H29年3月開催予定

○・70全体としての活動

○・70全体としては、毎週火曜日に平塚の馬入人工芝グラウンドで神奈川県内チームが集まり練習会を行っています。毎回ほぼ40名位が集まります。この中で、月1回は県内4チームでロイヤルリーグ戦を行います。11月から来年3月までは、人工芝張替工事のため、海老名中島公園人工芝グラウンドでの実施です。9月に清水で実施の4県対抗戦にはペガサス70として参加予定でしたが、雨天中止でした。

○・75の活動

横浜、川崎で○・75練習会を毎月3〜4回行っています。ペガサスとして単独で○・75のチーム編成は出来ませんが、この練習会でチームを作り対外試合をしています。本年は、掛川のECOPA大会、宮城松島大会、東日本ロイヤル那須大会に参加しました。

○・80の活動

堺市のJ-Green堺で行われる西日本OB連盟主催の○・80大会は今年で第3回となりました。3チーム参加で、首都圏連合チームにペガサスから6名が加わりました。チームの

主力となっています。宮城松島大会でも○・80の試合があり、やはりペガサスメンバーの3名が首都圏チームで参加しました。

このようにペガサス70の活動は若手中心のU・76チームに加えて、○・75や○・80でもそろそろ単独チームが出来そうな時期となりました。新しい若手メンバーの加入に期待するとともに、○・80に向けて多くの方がプレイを続けて頂きたいと思えます。



ペガサス65の登録メンバーは、ペガサス60の中で4月1日現在64歳を超えている人と、普段神奈川シニアリーグ六十雀で対戦している相手チームの64歳以上の人で、湘南ペガサスのメンバーと一緒にボールを蹴りたいという有志とで構成されています。今年度の登録人数は26名で、

そのうちペガサス以外のメンバーは、YK3名、えぼし2名、赤羽根1名、栄光1名の7名となっています。試合は、Gリーグと呼ばれる山梨を含めた関東8都県のチームとの交流試合が中心です。一日の大会では2試合、一泊二日の大会では4試合行なうのが常で、4月の深谷埼玉大会、市原千葉大会、6月の那須栃木大会(宿泊)、7月のひたちなか茨城大会、10月の関東シニアサッカー埼玉大会、11月の那須東京大会(宿泊)と、年間6大会、試合数で16試合が計画されています。

今年は神奈川シニアリーグやペガサス祭と日程が重なり、茨城大会と東京大会には参加できませんでした。したがって試合数は10試合と少なく残念ではありましたが、結果は4勝2敗4分、得点12失点7で、ま

ずまずの成績を収めることができず、昨年の勝率5割を考えると、少しは前進できたと思っています。しかしながら得点者を見ると大きな偏りがあり、一人で6点を稼いだ強者に頼っているとといった感があります。彼の得点パターンは、ほとんど

が味方からのパスによるものではなく、個人技で相手バックスを崩してシュートを決めるといったものでした。したがって試合に勝つためには、彼の得点力が不可欠となっています。さらに負けなかった条件として、正ゴールキーパーの試合への参加が挙げられます。対戦チームの中には昔の日本リーグや関東リーグでプレーした選手がいたり、スタミナ面で際立つ選手がいたり、加えてチームとしての連係プレーも見事で、総じて技術レベルの高いチームばかりです。したがってにわかキーパーではとても太刀打ちできず、正ゴールキーパーが不参加となると、どうしても失点が嵩みます。試合に勝つためには、正ゴールキーパーとリザーブの試合参加が、絶対に欠かせない条件となっています。

一方、試合中は勝ちに拘りながらプレーしますが、試合が終わればあまり結果には拘らないのがGリーグの良いところです。相手チームのメンバーも、50代、60代と一緒に戦ってきたメンバーが多く、どの大会に参加しても、各チームに顔見知りの

人が多くいます。特に一泊二日の大会ともなると、夜の食事時には懇親の席が大いに盛り上がりがあります。食事が終わると部屋に戻って、今度はチームだけでの二次会が始まります。一日の試合を振り返り、良かった点や反省点について勝手に意見を出し合い、明日の試合に備えます。時には昔の思い出話に花が咲いたり、また最近では病気や怪我に関する話題も増え、話はあちこちに飛びますが、昔のように日付が変わるまで夜更かしすることはなくなり、皆12時前には床に着きます。

今年監督を引き受けて一番苦労したことは、どうしたらチームとして得点につながる攻撃パターンを構築できるかです。皆が集まったの練習日はなく、試合だけに集まるスタイルの中で、大変難しいことではあります。目的を持ってやりたいと考えています。そのためにも、試合前の戦術の徹底はとても大事です。言葉で言ったことが、すぐに行動に移せる訳ではありませんが、毎回同じことを繰り返すことで、やがてはチーム

としてのプレースタイルの構築にながっていくのではないかと思っています。試合に負けて悔しいと思うなら、次の試合に備えてどれだけ準備をするか、ということになります。ですが、歳とともにその悔しさもだんだんと薄らいでいるような気がします。自主トレを行っても体力は日々低下するばかりで、維持することさえ難しいこの頃です。それでも試合を楽しむためには、最低限の基本技術、いわゆる正確なトラップとパスだけは、きちんと身に付けておくことが必須です。これさえできれば65歳の試合は何とかできますが、さらに、ボールをもらえる位置に少しでも動ける走力があれば、ボールに触れる回数も増え、さらにサッカーが楽しめます。この年になつてつくづく思うことは、なんとと言っても健康管理です。病気と怪我から身を守り、一年間サッカーができる体調を維持することが、最大の課題だと考えています。来年は、Gリーグ全試合出場と勝率7割を目指して、チームを運営していきます。

ペガサス60報告

45回生 浅倉 泰

今期より、ペガサス60の代表を努めております45回生浅倉です。ペガサスへは40歳になった時に、今は亡き同期の山口晴夫に誘われて加入し、それ以来25年に渡ってペガサスで活動を続けて来ました。またOB会では広報担当としてHP『湘南サッカー』を2001年から15年間運営しています。

地元の少年サッカーチームの代表を務めていたことも有り、ペガサス60の試合への参加が余り出来ていませんでしたが、ペガサスの方もしつかりやれと言う意味も含めて今回代表のご指名を受けたものと考えております。

さて、今期は基本方針を従来のある程度勝負に拘った試合運営から、全員平等に出場してサッカーを楽しむという試合運営に切り替えて臨みました。監督は坪井さんが再登板して、毎試合怪我を抱えながらも会場

へ皆勤して頂き、采配を振るって頂きました。毎回20人近くの参加者のポジションを考えながら全員出場してもらおうというのは私も四十雀時代監督を経験しましたが、大変な仕事です。坪井さんには深く感謝致します。

今期の成績ですが、まずシニア60雀リーグは加盟チームが増加した為、今年から二部制に移行しそれぞれ9チームでリーグ戦を戦うことになりました。ペガサス60は昨年5位で終了し、一部で開幕を迎えました。戦績は1勝5敗2分け、得点4、失点11、勝点5で8位に終わりました。辛くも最終戦の栄光に勝利し自動降格は逃れ、11月27日に2部2位の秦野との入れ替え戦に必勝を期して臨みました。当日は今期最多の26名の参加を得て4・0の快勝で一部残留を決めました。参加したメンバーの残留に対する強い気持ちを出場メンバーが受け止め、今期最多得点で勝利する事が出来ました。

県議長杯トーナメントについては、1回戦は突破したものの2回戦で敗れました。

協会主催の0・60全国シニア予選

リーグはBブロック7チームで残り2試合を残す所です。現在(11月末)は1勝2敗1分け、得点1、失点3、勝点4で4位につけています。

試合内容は上位チームとも互角に戦っていますが、得点力不足がはつきりしており、15試合で得点ゼロ試合が10試合と大変厳しい結果でした。

選手の出場時間も短めになるため、チームとして選手間のコンビネーションが深まらず、前にボールを蹴るだけという大味な試合が多かったように思います。

チーム運営の難しさを感じたシーズンだったと思います。

しかし、入れ替え戦ではサイド攻撃から多くのチャンスを生み出し、結果に結びつけることが出来ました。来期へ向けて光明が見えた試合でした。

私はCBとして試合に参加していますが、いつもラインの押し上げを意識しています。中盤が空いてしまうとMFのカバーする範囲が広くなり、結果的にこぼれ球を拾うことが難しくなり、厚みの有る攻撃が出来

なくなりません。SBもスペースが有

る時は前に出てパスカットを狙うなど攻撃的なプレーをしないと、得点機会を増やすことが出来ません。60

を過ぎると走力が落ちてきて、どうしてもボールが前にある時はお休みモードになってしまっていますが、そこを一踏ん張りして前に出てボールに積極的に絡むプレーをしたいものです。

個人的には最近、筋力の衰えと伴に怪我が増えています。いつもベストコンディションで試合に臨めるように、これまで以上にトレーニングをしなければと感じています。今後皆様とサッカーを楽しめるように努力をしていきたいと思っています。



前期県リーグで3勝4敗とリーグ中位で戦えることは証明できた。今期は前期に引き続き堅守速攻に磨きをかけて勝点12を目指し県リー

グに挑んだ。

初戦の県庁戦は1・2で落としたが、その後は順調に勝ち星を重ね4連勝し、天王山の横浜シニア戦に1・1で引分け、最終戦の栄光戦に1・0で勝ち5勝1分1敗勝点16と目標を超えてブロック優勝となった。

その後の順位決定リーグでは優勝した早園には1・2で逆転負けしたものの1勝1分1敗勝点4で2位を確保し来期1部昇格となった。

これまで勝てずに先輩方にはご迷惑をかけてきましたが、戦力の補強、戦術の徹底により短期間で結果を出すことができました。

特に藤原、田中二郎の鉄壁CBと田中晃、井口、柳楽の若手攻撃陣が上手く機能して県リーグ7試合で得点11(うち田中晃7点)失点4とバランスの取れた戦いができました。

前期は1点差負けが3試合、今季は1点差勝ちが3試合と勝負強くなったのも見逃せません。

一方、全国シニア神奈川予選リーグについては現在2勝1分6敗と苦戦していますが、残り三試合同レベルのチームとの試合が続くので全て勝つ積りで臨みます。

また、古河マスターズは55中心に

チームを組み2勝1分1敗と久々に勝ち越し、7月には時之栖での合宿を行い関東の強豪チームと対戦して来たこともチーム内のコンビネーションの向上に寄与したと思います。

試合後の祝勝会や反省会でチーム内のコミュニケーションがよくなっただけでこの成績に影響していると感じています。

来期は県リーグ1部に昇格することになるので、開幕前から練習試合を組んで厳しい戦いに備えたいと思います。



まずは今季戦績の現状(2016年11月下旬現在)から報告したい。全日程終了したKSSリーグは5勝5敗1分、勝点16の5位。過去のことに紙面を割いてしまいが、昨季は4勝4敗3分、勝点15の5位。ほと

んど違いがないようなこの微妙な差をどのように捉えたらよいのか？

にわかには答えは出ないが、大負けがいくつもあり、得失点差△5というのは、安定感が低下したといえるの
 だろう。ただ、一方ではなかなか高
 齢化を止められない今の力量からす
 るとだいたい実力通りというところ
 だろうか

O・50 神奈川リーグは残り4ゲー
 ムを残し、5勝2敗1分でブロック
 の上位に何とか食い込んでいるが、
 相変わらず人数確保が苦しい状態が
 続き、抜本的にチーム編成を検討す
 べき時期にきていると感じざるを得
 ない。

もう一つの課題は常連メンバーに
 湘南高OBが少ないことがある。以
 前、湘南OB以外のメンバーが多く
 いる美点を書いたが、それを否定す
 るものではまったくない。比率とい
 うよりも絶対数が少ないことから
 チーム全体の求心力みたいところ
 がどうしても脆弱になっているので
 はないかと感じる。昨年、それまで
 なかった大学サッカー部OBのシニ
 アチーム(40・50代)を結成したが、
 あえて体育会OBの純血にして、ユ

ニフォームも現役と全く同じものに
 してアイデンティティを高めた。そ
 のような方法論もあるが、混血の良
 さを追求するのがペガサスらしいと
 感じてそうしたいと思っているが、
 湘南の少なさが混血の強みを減じて
 いるのではないか。

今後は外部からのペガサスのよき
 仲間を引き入れていくとともにサッ
 カーから少し離れていた湘南OBに
 もシニアの楽しさを説いてサッ
 カープレイヤー復帰を働きかけるな
 ど策を講じていきたい。



今年7月にフィリピンから約5年
 振りに帰国、ペガサス40に参加する
 ようになった。

現地では若手に混じって、週2フツ
 トサル、週末どちらかは大ゲーム。
 ゴルフコンペは、支店長からの誘い
 にも「やったことありません」と断

り(新入社員時以来20年本当にやっ
 てません)、全てサッカー中心の生
 活を築いてきた私にとって、40代専
 用のリーグ戦なんか「結構いけるん
 じゃない？」と、かなり楽観的に考
 えていた。

その甘い考えはもろくも崩れ去つ
 た。40代というのに、敵味方皆さん
 本当によく走る走る!!。現代のポ
 ゼッションサッカー全盛の中では居
 場所がない多くの方々は、「とりあ
 えずビール」ならぬ「とりあえず裏」
 にどんだんボールを放り込んでくる
 し、FWもガチンコ勝負を挑んでく
 る。DFも遠慮無く身体を当ててく
 るし、人工芝のピッチであることを
 幸いにスライディングも当たり前に
 する。

もう一点は、「善木ボランチやっ
 てもらってから」という若木監督の何
 気ない、でも心を突き刺す一言。「自
 分、今までDFだったよ。高校時
 代、横で一緒にプレーしてたよ、
 若木君」という魂の視線を送るもの
 の、アイコンタクトという一世を風
 靡した言葉はどこへ行ってしまった
 の、という感じだった。

それでも、30分ハーフ、交代自由

という画期的なルール、また、「ピッ
 チの都合上、雨天中止」といった中
 年に有難いルールとチームメイトの
 助けも借りながら、楽しくプレーし
 ているうちに順位も上位をキープ。
 今まで最終ラインから「セカンドボー
 ルの寄りが甘い、ボールがどこに落
 ちるか予測しないと、また追い越す
 動きが出ないと相手のラインも崩れ
 ないから」なんて好き勝手に言っ
 ていたが、ボランチから見れば、海
 外支店に従事する者が現場を知らな
 い本部(大抵東京)担当者を抱く「O
 KY(お前、来て、やってみろ)」と

いう言葉がこれ程当てはまる状況も
 なく、「相手の立場を思いやる心」
 が芽生えてくるに従い、最終戦で勝
 てば初優勝という大一番までたどり
 着いたが、結局勝利を掴むことはで
 きず、結局3位でリーグ戦を終了し
 た。今後はトーナメント戦に舞台を
 移すが、今回の悔しさを晴らしたい
 と考えている。上位進出、悲願の
 初優勝ということを考えれば、その
 日(四十雀以上のチームはメンバー
 の集まり具合により、優勝を狙える
 チームにも残留がやっとのチームに
 も一瞬に変化可能)のベストメンバー

のみで勝つ選択もあるだろうし、それを否定しないチームも大勢ある。

その一方で、当日参加したメンバーが、時間の差はあれども、少なくとも皆がプレーでき、「来て良かった。また参加しよう」と思える雰囲気作りが何より大切だと思うようになってきた自分がある。どんなに素晴らしいチームでも、その中心が抜けたら数年後に消滅、というケースを見てきたが故に、一層そうした歴史の重要性を40代半ばになって痛感する次第である。

古いOBの方々は直接、若手OBは、鈴木先生（中さん）のメモ帳で、「高校サッカーは3年の夏になってようやく分かってくる」という言葉を聞いたことがあるだろう。当時は「分かった時にはもう終わってるよ」思っていたが、18歳の夏でなく、25年も過ぎて「分かった」というよりも「分かりつつある部分」を数多く内包しているサッカーの奥深さに新鮮な驚きを感じている。40代でこれ程真剣にプレーするなんて若い時には思いもしなかったが、それを可能にしてくれたのは、やはり高校時代に一緒にボールを追いかけた当時の仲間

間達であり、善行の体育センター迄の道のりを一緒に走った（殆ど歩いた）仲間達なのである。



湘南高校サッカー部OBの皆様、平素より大変お世話になっております。若手OBチーム、トトカル

チョ湘南の長大地（88回）です。私事ですが、来春より社会人となり、2013年より約4年間務めさせていただきました、サッカー部のOBコーチの活動を終える事となります。コーチとして至らない点が多々あったかと思いますが、現役選手達のお役に少しでも立てていたら幸いです。私自身、大変貴重な経験を通じて、成長させていただきました。誠にありがとうございます。OB会の皆様方には、スペイン遠征への帯同を始めとして、多大なるご支援をいただきました。この場をお借り

して御礼申し上げます。

さて、本題であるトトカルチョ湘南2016年度活動報告をさせていただきます。現在は神奈川県社会人リーグ3部に所属しており、2部昇格を目指し活動しております。一昨年、昨年とご報告させていただいているように、下位に低迷しており、運営面でも人数不足など厳しい状況が続いております。しかし、今シーズンは、昨年からの運営体制の見直しの成果が少しずつ出てくるようになり、なんとか人数を確保し、全試合スムーズに消化することができました。

への昇格決定戦の進出圏である2位には、惜しくも得失点差で及びませんでした。得点は多く重ねながら、それと同等数の失点となり、堅実に守ることをスタイルとする湘南高校サッカー部らしからぬ戦績となつてしまいました。一方、若手卒業生の参加率向上や、GKの確保により、戦術の多様化や適切な人員配置が可能となりました。来シーズン、自分たちの力を問題なく発揮することができれば、昇格戦への出場が期待できると思います。

- 5月22日 美蹴団新横浜 △ 3・3
- 5月29日 住友電工 ○ 3・1
- 6月12日 Panasonic/VIORA ○ 1・0
- 6月19日 SALVATOREI991 ○ 4・1
- 6月26日 FC ARROWS ○ 2・1
- 7月24日 FC MADCAP × 0・4
- 7月31日 鎌倉市役所 × 1・3
- 9月25日 Mr. Bahinos ○ 5・4
- 10月16日 藤沢市役所 ○ 2・0

ただ、課題は多くあります。現在、チームの活動としては、この県リーグの試合のみで、練習、練習試合などは参加者が少ないため行うことができず、ぶっつけ本番でリーグ戦に臨んでいます。試合の中だけで連係や、戦術の共通理解を得るには限界があり、この部分は改善していきたいところです。また、人数確保も十分ではありません。初戦は10人での戦い、それ以降も毎試合11人、12人とギリギリの人数で戦ってきました。ゲーム終盤での失点はチーム層の薄さが大きな原因であると思われま

す。こうした課題もあり、若手OBの皆様

様方のお力が必要です。学生から社会人まで交流でき、湘南サッカー部の縦のつながりをより強固にしていきたい。ぜひ皆様の加入をお待ちしています。現在は若手各代にトトカルチヨの加入者がいます。気軽にお声掛けください。

チーム一丸となり、来年こそは、2部昇格という良いご報告が皆様に見えるよう、精一杯頑張っていきたいと思えます。

湘南スプレッド報告

79回生 櫻井 大輔

毎年、ビーチサッカーチーム湘南スプレッドのことを書く機会をいただき誠にありがとうございます。湘南高校サッカー部OBを中心に、ビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』を作り、10年目となりました。

今年は、2年に1度のFIFA

ワールドカップのはざまの年で、全体的にメディア露出が少ない年でしたが、アジアの国々が力をつける中、

日本は、アジアビーチゲームゲームスで初優勝を飾る等、ブラジルより帰化したオズ選手等の活躍で、日本代表のレベルが上がっています。国内の環境は、昨年度設立した日本ビーチサッカー連盟の普及活動により、地域リーグが整備されつつあります。

環境整備が進んでいる関東で活動する僕たち湘南スプレッドの戦績をご報告します。

年間を通じて10チーム総当たり2回戦で行われた今年の関東ビーチサッカーリーグでは、第5位という結果でした。今年で第3回となるのですが、第1回の3位、第2回の4位、今年の5位と徐々に順位を落としています。

また、全国大会予選は、県大会で準優勝し、出場した関東予選では、全国の切符を得る上位3チームに入らず、4年連続の全国大会出場とはなりません。リーグ戦もやはり、関東大会もやはり、徐々に順位を落としているのが、チームの現

状です。チーム力の低下の理由は大きく、三つあります。

第一に、練習場の確保です。こちらは、昨年度も書かせていただきましたが、ナイター設備のある練習場の閉鎖により、平日の練習ができなくなりました。第二に、主力メンバーが家庭を持ち始めたことで、ビーチサッカーへ避ける時間が少なくなりました。そして、第三に、主力メンバーが、次々と海外転勤や地方転勤してしまった点です。三番目は、最大のダメージとなり、全国大会の切符を手になかなかつた直接的な原因となってしまいました。社会人チームのメンバー確保の難しさを痛感した年となりました。

来年度はチーム立て直しのため、積極的に、外へ出て、新戦力の確保に邁進したいと思えます。そこで、今年もこの場を借りて、選手及びサポート頂ける方を募集させていただきます。少しでも興味を持った方がいたら、一度だけでもビーチに足を運んでいただければと思います。

最後に個人の活動について書かせていただきます。今年3月に、1人目の娘が産まれ、仕事、家庭、ビー

チサッカーの両立に挑戦中です。環境整備活動も、嫁に怒られながら

(?);、関東リーグでは、事務局として、今年から、ホーム&アウェイの総当たり2回戦を導入し、年間の総試合数を2倍にし、リーグ全体で年間90試合を無事消化できました。また、今冬から、神奈川県サッカー協会の事業として、県リーグの開催に向けて準備中です。これからもビーチサッカーを通じて、新しいスポーツ文化の発展に寄与すると共に、OBの皆様にも明るいニュースをお届けできるよう頑張っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。少しでも興味を持っていただける方がいましたら、以下連絡先まで、お気軽にお問い合わせいただけます。sakurai@jimconsult.com

顧問報告

代表顧問 竹谷 睦

今年度も、OB会の皆様には多大なご支援を頂きましてありがとうございます。ご支援のほどは、誠にありがとうございます。

また、3月～4月にかけてのスペイン遠征では、緊迫した世界情勢の最中、色々な方々にご支援頂きまして、無事に実施することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。この場をお借りして御礼申し上げます。選手たちは、世界のサッカーや文化を実際に肌で感じ、貴重な経験をしてきました。現地では湘南高校サッカー部海外遠征発起人の前々顧問の清水好郎先生（現二宮高校）にも同行して頂き、湘南高校サッカー部の海外遠征の歴史についても学ばせて頂きました。私にとっても初めての湘南高校サッカー部の海外遠征でしたが、この遠征は、本当に湘南高校サッカー部でしか経験できない充実した内容であり、湘南高校サッカー部だからこそ続けることが出来る遠征であると改めて実感させて頂きました。事前学習ではOBの森さんに何度も学校へ足を運んでご指導頂き、全てに同行して下さいましたOBの相羽さん、ドクターの加納さんを始め、本当に多くのOBの方々に支えられてきたからこそ出来

た遠征です。これからも様々なハードルが待ち受けていると思いますが、ぜひOBの方々のご支援のもと、継続していければと思います。

さて、今年度の大会結果は、海外遠征帰国後間もなくの関東2次予選では、コンディションに不安がありましたが、順当に勝ち進みベスト4掛けで桐蔭学園に敗退はしたものの、結果としてはベスト8。しかし、インターハイ2次予選では初戦で川崎市立橋高校に敗退。これにより選手権1次予選にまわることとなり、選手権1次予選ブロック決勝で秦野高校にPK戦の末、6年ぶりに選手権1次予選で敗退することになりました。関東大会2次予選でベスト4であればインターハイ2次予選と更に選手権2次予選へのシードが確定していたこと、また、インターハイ2次予選の初戦に勝利していても選手権2次予選へのシードが確定していたことを考えると、勝たなければならぬ、絶対に負けられないという中でのあと1勝の難しさを痛感させられた1年でした。また、昨年の選手権予選ベスト8、今年度初めの関東大会ベスト8と続き、そこから更に

に勝ち続ける事の難しさも体感した1年でもありました。

リーグ戦基軸の高校サッカーの流から、年間を通じてリーグ戦が定着してきた昨今、今年度の湘南高校の選手権は7月で終わりましたが、8月末のK2リーグ、そして9月上旬のK3リーグ戦に向け、ほとんど3年生が引退することなく残り、一区切りつく9月までやり切ってくれたことは、これからの湘南高校サッカー部にとっても新たな第一歩となるとても意味のある結果を残してくれたと感謝しております。3年生の今後の活躍に期待します。これからの高校サッカーは、年間を通じたリーグ戦が高体連の大会シードに直結する世界でもあります。来年度からはU・18神奈川県リーグ戦も3部制から4部制へと変わり、1部と2部は関東大会予選、インターハイ予選、選手権予選が全て2次予選からのシードとなりそうです。1部2部は10チームのホーム&アウェイという1年間を通じたプレミア・プリンスチームを除いた県ベスト20の厳しい戦いのステージです。湘南高校のトップチームは来年度3部からです

が、1部2部に昇格することが神奈川県制覇へ大きく近づくことになると考えます。勉強の比重も大きい選手にとっては、今までも更に困難な道に立ち向かっていかなければなりません。神奈川県制覇を目指し、日々精進していきたいと思いません。なかなか思うように結果が続きませんが、今後とも引き続きのご支援の程よろしくお願い致します。



自己紹介

選手権

高校では無し（母校の桐蔭学園では、当時推薦の選手のみが入部でした）
指導歴

山形県立新庄北高等学校 主顧問・
監督 2年

山形県立北村山高等学校 主顧問・
監督 3年

神奈川県立相模向陽館高等学校 第

二顧問5年

OB会の皆様、初めまして。今年度から湘南高校に赴任してきました。赴任後のわずかな期間だけでも、OBの方々の手厚い支援が感じられ、伝統ある湘南高校サッカー部に携われることの喜びとともに、責任の大きさを日々感じております。

さて、4月に湘南高校に赴任してきた当時、神奈川県の日制高校のサッカー部の流れに慣れない中、竹谷先生や遠藤先生に助けられながら、またOBの方々に温かい言葉をかけていただきながら本日までやってこられました。これからも、少しでも選手たちのためになるような指導ができるよう、向上心をもって取り組んでいきたいと思えます。

チームの目標である神奈川県制覇を目指し、微力ながら力を出し切り、選手とともに成長していきたいと思えます。来年度からリーグ戦の制度も変わり、さらに困難な道を越えていかなければなりません、たゆまず努力しOBの方々によい報告ができるよう日々のトレーニングに望みたいと思えます。今後ともよろし

くお願いいたします。

現役報告



内藤 憲

「今回、現役報告をさせて頂く内藤憲です。日頃より、OB会の皆様の心強いご協力とご支援により、日々充実した活動が送れていること、大変感謝しています。そのご支援への感謝の気持ちを忘れずに、期待にお応えできるよう日々の練習に取り組んでいきたいと思っております。

関東大会では昨年同様ベスト8という結果を残せましたが、選手権予選では1次予選の決勝で敗れてしまいました。新チームでは先輩方が積み上げてきてくださったベスト8という記録を越し、さらにその上の神奈川県制覇を狙って日々努力していきたいと思っております。

私達は今、ボールを大切に試合を通して自分達の時間が長くなるようなサッカーを目標に取り組んでい

ます。それを実行する上で必要なパスやトラップなどの基礎技術の向上を図っています。竹谷先生のご指導のもと、自分達が理想とするサッカーに少しでも近づこうと部員同士で一層高め合っています。

また、ウエイトトレーニングや食事の管理にも力を入れ色々な面からサッカーを見つめることで、サッカーの技術だけではなく人間性や精神力の向上にも努めています。湘南高校サッカー部でしか経験することのできない素晴らしい環境で自分達の能力を伸ばすことができていると感じています。

しかし、神奈川県制覇という最大の目標を目指すにあたって、まだまだ自分達の力では遠く及ばないのが現状です。先日行われた二次予選の準決勝を見たとき、ベスト4という重圧の中で戦うことの厳しさを肌で感じる事ができました。技術的にも精神的にも自分達より上回っているチームでさえ簡単なミスをしてしまうような雰囲気の中で、自分達がプレーするには日々の練習からあの舞台に立っている自分を想定し練習に落とし込まなければなりません。

そして今の自分達に不足しているものを具体的にとらえて、それらを補えるような練習に取り組んでいきたいと思えます。

また昨年の春には、OB会の皆様のご支援による海外遠征に参加させていただきました。現地ของทีมとの試合や現地のコーチによる指導からサッカーの技術を学ぶことができました。それだけではなく現地の高校生との交流や観光などを通して、スペインの文化に肌で触れることができ、日本とは異なる文化の中で本当にたくさんのお話を学ぶことができました。海外遠征を実施してくださったOB会の皆様に感謝し、スペインで学んだことをサッカーや日常生活に活かして日々精進していききたいと思っております。

部員一同、竹谷先生にご指導いただき、神奈川県制覇、さらにその上を見据えて活動していきたいと思えます。OBの皆様にはこれからも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。」

編集後記

事務局長 48回生 関 佳史

○新会長の小泉親昂さん（39回）がこの11月に、旭日小綬章を受章されました。小泉さんは、鎌倉市議、

神奈川県議を長くつとめました。また、飯田志農夫さん（39回）が瑞宝中綬章を2016年11月に受賞されました。飯田さんは自治省出身で大分県副知事、その後セコム（おじ様の飯田亮さんが創業者）に転じました。おめでとうございます。39回には外交評論家の岡本行夫さんもいらして、行政関係で活躍される方が輩出した学年です。

○69回の元榮太一郎さんが6月の参議院議員選挙で千葉県選挙区から立候補し、当選しました。サッカー部OBでは衆議院議員の水戸将史さん（56回）と並んで2名が国会の場で活動することとなりました。元榮さんは、弁護士であり、「弁護士ドットコム」（東証マザーズ上場）の創業者としても活躍しています。今回は、サッカー部の思い出をテーマに

寄稿していただきました。

創部百周年は開校百周年と同じ2021年です。湘友会では全体の百周年行事について検討を重ねていますが、サッカー部OB会幹事会はこれに協力していく方針です。また、サッカー部独自の記念事業もこの夏から具体案を検討しています。

○サッカー部OB会事務局では、記念事業の目玉として、百年の歴史を再度構成しなおして、「私の履歴書」的な本の作成を提案します。半世紀、80年、90年と、おりおりで文集はつくりましたが、これらを統合し、読みやすい形で再構成する試みです。1920年代の創部のころから、昭和21年の国体優勝、昭和64年の選手権ベスト16など、読んで面白い歴史本を目指します。この中では、各方面で活躍した人、特徴のある人に焦点をあて50人ほどを紹介します。詳しくは、2017年正月の総会で提案します。

〈御礼とご報告〉

副会長 41回生 相羽克治

9月の台風で甚大な被害を受けた岩手県岩泉町。44回生分田真君はその30年以上「陶芸」をしており、

町の発展にも尽力されています。災害の後は奥様ともども地元の復旧作業に従事し、今もご苦労されています。その節は、OB会として皆様にもお声掛けをし、暖かいご支援を頂きありがとうございます。ご報告などは、分田真〓検索で見てください、「亜細亜工房 森水窯へようこそ」の項目を開いていただくとご覧になれます。今後ともよろしくお願ひいたします。

中さんの偉業、一休み



15年間毎月1日にHPにアップされ、中学生や保護者にも多く読まれてきた「中さんのメモ帳」。12月で「一休み」ということで、その文章を紹介いたします。

表記の記念品は私の宝物である。この12月は、日本サッカー界総決算の時

期である。具体的には、第96回天皇杯決勝大会、第65回大学選手権大会、そして第95回全国高校選手権大会・本大会である。何れも暮れから正月にかけて開催される。上の写真は、私が65年前に東京都代表として、都立豊多摩高校が参加した時の物と、湘南が42、44、66回大会に神奈川県代表として参加した記念品である。尚天皇杯は1957年・広島大会に私が教育大学時代、若友クラブ主将として参加した記録と合わせ、その前年1956年・大学選手権大会で優勝した記念のプログラムが残っている。自分が経験した60数年前のサッカーと比較して今のサッカーは確かに上手くなった事は認めるが、日本のサッカーは本当に進歩、発展しているのだろうか。大きな疑問を抱いている。2002・日・韓共催W杯大会に來られドイツ協会のバッジを戴いたクラマーさんが生きていたら何と言われたらう？このメモ帳も随分と長くなったのでこの辺で一休みして次に進みたいと思っている。湘南サッカーのOB向けの物であるのでいろいろ考えさせられる。只こういう文章も世界に発信されるのであまり無責任なことも書けない。ここで一息入れて来年春に再出発するつもりなので、多くの方の意見を聞かせて欲しい。宜しくお願いします。

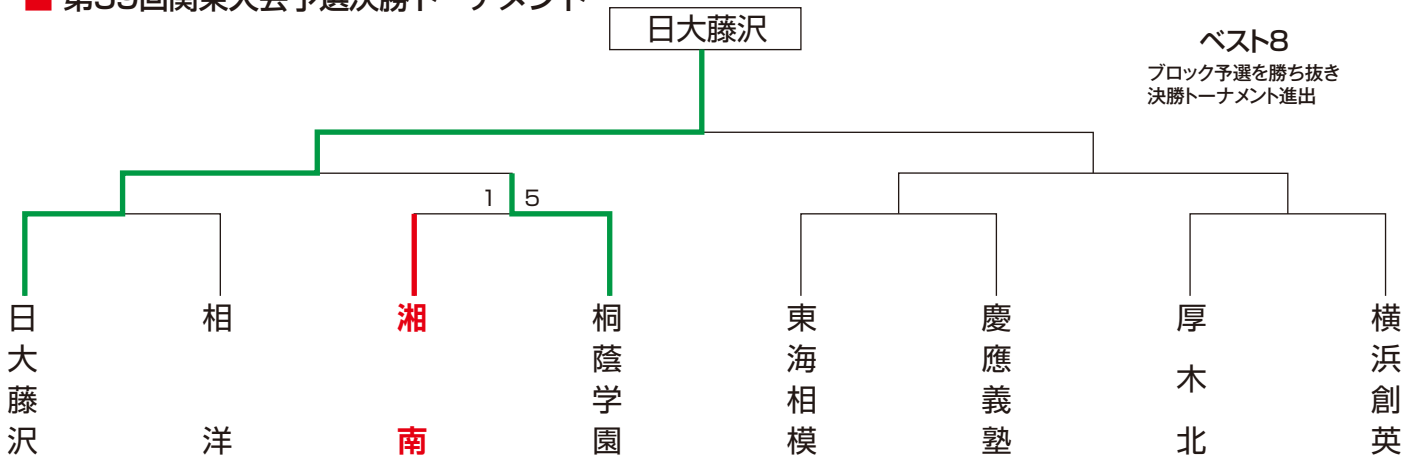
「追伸」

(一休み) するに当たり、この「メール通信」のこれまでの流れを少し書いておきたい。スタートは2001年、OB会のHPに何か現役の状況報告をと云う事で、サンデー毎日で、足?くグラウンドに顔を出す私が何かを書こう、と云う事になり「中さんの、メール通信」がスタートした。約5年で50回、2009年から「続中メール・50回」、そして「中さんのメモ帳・60回」で、この12月を迎える。大分足腰も弱り、寒くなるとグラウンドに顔を出すことも少なくなってきた。そこでこの辺で一休みして暖かくなってから、再出発を考えている。この機会に何かご意見、ご要望があれば、OB諸兄弟のご意見を是非お伺いしたいと思う。(一休み)はどの位になるのだろうか?

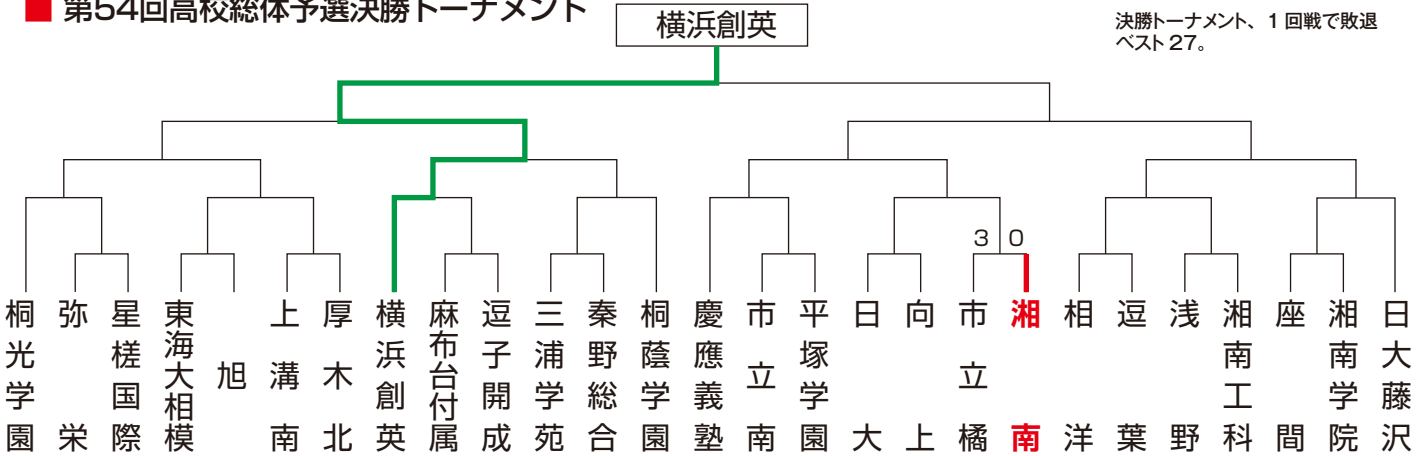
s-cyu@mg.yaon.jp このアドレスまでお聞かせください。



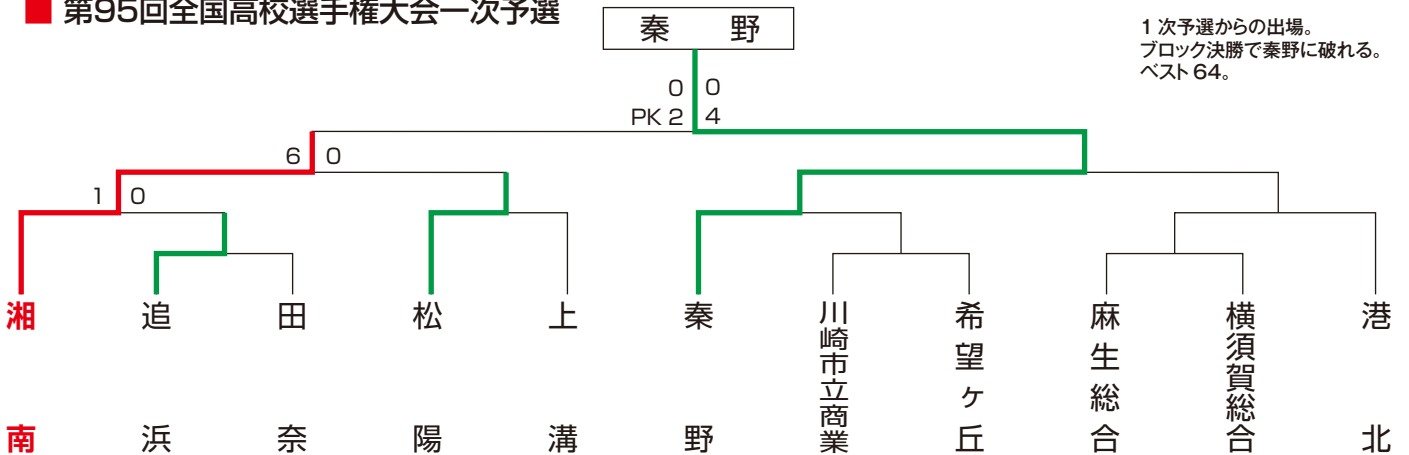
■ 第59回関東大会予選決勝トーナメント



■ 第54回高校総体予選決勝トーナメント



■ 第95回全国高校選手権大会一次予選



[平成28年度 会計報告・予算案]

収入

	28年実績	29年予算
会費・寄付	1,538,323	1,450,000
前年度繰越	105,152	28,524
スペイン遠征繰越金	400,000	0
利子	49	0
計	2,043,524	1,478,524

※収入見込み 社会人 150名、学生 50名が納入 10,000×110名+ 5,000×40名+ 3,000×50名

支出

	28年実績	29年予算
現役寄付（付属戦補助含む）	600,000	500,000
蹴球祭	103,000	100,000
スペイン遠征補助	750,000	300,000
通信・事務費	102,000	140,000
印刷費	160,000	160,000
100周年積立へ	300,000	200,000
繰越金	28,524	予備費 78,524
計	2,043,524	1,478,524

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、5年前より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いたします。現在積立金は、¥1,200,493-です。

また、100周年事業に対しては、「事業委員会」を作り早めに検討・準備を進めた方がよいと思われま。各代（特に60才以下）に委員への立候補を強く希望します。改めて委員への参加お願いをさせていただく事もあります、その折は、是非よろしくお願申し上げます。

現役寄付・会計報告 平成27年11月1日～平成28年11月12日

収入		支出	
前年度から繰越	188	遠征補助	39,600
寄付	600,000	トレーニング用品等	147,493
その他	0	筑波大附属定期戦	0
計	600,188	会場・試合等	144,786
		参加費等	15,000
		海外遠征関連	0
		ボール	77,700
		コーチ費用	175,002
繰越金	607	計	599,581

[29年度会費納入の件]

28年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。（振り込みには卒業年を入れてください）


- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
 湘南高校サッカー部 OB会
 武藤俊一 TEL. 0466-34-9329

お問い合わせ・ご質問は

[ホームページアドレス]

湘南サッカー  で検索。

湘南サッカー部OB会
<http://www.shonan-soccer.com>

[メールアドレス]

関 佳史（事務局）
seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一（事務局）
muto-s@jcom.home.ne.jp

横山雅行（事務局）
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

[蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月9日(月)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

例年、日曜日開催ですが、新人戦が日曜日に入るため
今年は、成人の日＝月曜日に開催します。お間違えないよう。

09:30～10:50	現役 VS トトカルチョ
11:00～12:00	総会 幹事会はその前9:30～
12:15～12:30	現役交歓式
12:30～13:30	食事
13:30～15:30	40以上 OB紅白戦 2面使用 (着替えは清明会館和室使用)

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄ってください。
※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

湘南高校サッカー部 部歌

岩淵二郎 作詞
鏑木欽作 作曲

一、白雲と高く天翔る理想

青春を培う男児ぞ我等

伝統煌たり響けりその歌

行け行け今ぞ貴き征衣

相武の健児は天下に覇たらむ

湘南！ 湘南！

二、若き日を勁く漲る力

烈日に鍛う牡獅子ぞ我等

清明燦たり光れりその旗

立て立て今ぞ無縫の天衣

輝く王座を断じて獲らむ

湘南！ 湘南！